

受講番号 19022 学校名 高知丸の内高等学校 氏名 田村 実敏

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2・3年生 生徒数 27名
 科目名 英語Ⅱ 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Power On English II

クラスの様子・特徴

授業にまじめに取り組む生徒がほとんどであり、ペアワークなどの活動にも一生懸命取り組む姿がすばらしい。しかし、英語に苦手意識を持っている生徒も少なくない。2年生、3年生が混在する選択科目であり、授業の目標設定に難しい面がある。

問題の確定

単語テストなどでは高得点をとる生徒もいるが、そのような生徒も含めて英文を理解することに苦手意識を持っている。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
英語を分かるようになりたいという気持ちを授業中に感じるクラスである。授業中のペアワークなどの活動にも積極的に参加できる。ただ、そのことがコツコツとした学習に結びつかない生徒も多く、英語学習に対する更なる動機付けも考えなければならないと思う。	授業は、楽しい、おもしろい、わかりやすい、という好意的な意見が多かった。生徒に「わかった」と思ってもらうことは教師としてこの上ない喜びである。しかし、本当に英語の力がついているのかどうか知りたい部分ではある。	5月のテストを通して5文型の理解度をみると、概していえば、第3文型までは半数以上が理解できているが、第4・5文型になるとぐっと理解度が下がることが確認できた。動詞の語法を理解していないということである。

リサーチ・クエスト

基礎が身に付いていない生徒が、どのようにすれば英文の意味がわかるようになるか。

仮説・実践・検証

仮説1 一つひとつの活動を細かく評価するようになれば、生徒のやる気を促し、効果的な動機付けになるだろう	実践1 ワークシートを用い以下の活動全てにその場(教卓)で確認しハンコを押し、学期末に集計・評価することにした。1)辞書引き活動、2)単語クイズ、3)例文の線引き活動、4)本文の線引き活動、5)スキミング、6)スキヤニング、7)宿題、などである。また、評価する際、必ず言葉がけをしてコミュニケーションを図る機会にもするように努める。	検証1 前期末の9月末にハンコの数を集計した。最高が60回程程度で、最低が30回程程度であった。着目したいのはほぼ全員がハンコを押す機会の半分以上に参加できたことである。授業中イスに座るだけの生徒は皆無となった。ただ、「ハンコ評価」をしていない場合との比較ができなかったが結果を見ると授業に参加する生徒が例年以上に多く、良い動機付けになったと思う。また、評価時に言葉がけて喜ぶ生徒も多数いて授業に活気が出た。
仮説2 線を引ながら英文を読むことで、日本語に直さなくても英文を理解できるようになるだろう	実践2 ワークシートを用い、教科書本文を学習する前段階で重要表現を学習する際の例文、そして本文の学習をする際に、実際に本文への線引き活動を行った。下線の種類は、主語が一本線、動詞が二本線、目的語が三本線、補語が点線、副詞などの修飾語が波線である。習熟度的に低い生徒にも、主語と動詞にだけは自分で引くことを常に求め、次のステップで動詞の語法に基づいた文型の理解を求めたこととした。	検証2 後期、テストを通して文型の理解度をみてみた。前期と比較して、理解度が低かった第4・5文型を理解することができた生徒が8割程度に増えていた。また、授業アンケートをみると最初はなかなか線が引けなかったが、最後は理解できて楽しかったという生徒もいた。ただ、未だに文型の要素が理解できていない生徒も数名いるのが実情であった。
仮説3 5文型を意識して英文を読ませることで、英文の意味を理解できるようになるだろう	実践3 ワークシートを用いてペアワークでお互いに「日本語→英語」、「英語→日本語」などの読む活動を行った。ワークシートは左側に下線の引かれた英文、右側に英文の語順で並べた日本語を配置した。まずは「主語+動詞」を日本語又は英語で読み、それを英語や日本語にフレーズ毎に直しながら読んでいくことをメインの活動にした。同時通訳の雰囲気が出ればよいと考えた。	検証3 活動を観察してみると、生徒達はこの活動に楽しんで積極的に参加していた。また、授業評価では8割の生徒が好印象を持っていた。英語の語順についても、まずは「主語+動詞」だ、という意識をもち英文に接することができるようになったと思う。ただ、ペアワークではなく教員とのテスト形式で実際の英語運用能力として測ることができてないのが今後の課題である。

研究の成果

「ハンコ評価」は活動が個人にはなるが生徒各自の授業参加に対する動機付けにはなった。また、私とのコミュニケーションの機会となり良かった。「線引き学習」では動詞の使い方を意識するようになり、長文も頭の中でスリム化して理解できるようになった生徒が出てきた。また理解不足だった第4・5文型を8割の生徒が理解できたことも成果である。そして「文型を意識した読み」だが、8月に研修したK/Hシステムを自分なりに授業へ取り入れてみた。英文を頭から文型を意識して読むようなきっかけになったと思う。

今後の授業改善の課題

「文型(動詞)が大切である」と言い続けて、多くの生徒が趣旨を理解し活動してくれた。その結果、文型を理解できたものが増えた。しかし同時に課題が残った。「語彙不足」である。文型は理解できても単語を知らず理解できないことがあった。このクラスでは「辞書を読む」ことを目標に辞書引き活動もとり入れているが、現在の活動では生徒の語彙力向上にまだまだ寄与していないようだ。今後は辞書の更なる利用も研究したい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-873-4291

電子メール